

薦神社の建物は元々三角池を囲む仏教と神道の神社・寺の複合施設の一部であった。その池と南西にある八面山は 2,000 年以上にわたり精神的な力と連想されてきた。その山はこの地域で崇められている神道の神々の歴史的に重要な住まいである。池の隣にあるのは、国東半島全体の歴史的な精神的権力の中心である宇佐神宮に通じる古道である。薦神社となる複合施設の建設は 9 世紀に始まった。しかし 19 世紀の明治維新の間に神社・寺の複合施設は神道と仏教の慣習を切り離すよう強要された。その間仏教の建物のほとんどは壊されてしまった。だが薦神社の建物は生き残ったのだった。今日ではその敷地は神社となっており、歴史的には仏教建築であるにもかかわらず神道の崇拝の場所となっている。